

ま っ た り 旅 で 行 こ う !

高校1年 中川 凜太郎

■まったり旅とは…

これは勝手に基準を設けて言っているだけだが、以下の基準がある。

1. 基本的に車内では着席している。
2. お茶を飲める。お菓子も食べられる。
3. 椅子は柔らかくないとダメ。
4. 携帯音楽プレーヤー(Walkman 等)の使用が可能な環境。
4. 1. 曲はあまりメジャーなものを聞かない。ただし古い曲なら良しとする。
5. とりあえず乗り換えは適当。来た列車に乗る。
6. 窓を開けられるなら開ける。

こんな感じが私なりのまったり旅となっている。このような条件を元にした旅行記をご覧ください。

■第一回 訃田の夕暮れ

7/26 だったのだろうか。母親が用事で山形へ帰省しており、その日はちょうど帰宅した日であった。その時利用した土日きっぷを私ほもらい、少々旅行をしようと夕方から家を出た。

□稲毛海岸駅からそれは始まった。

夕方から家を出ていけるところといえば、千葉県内なので千葉駅へと向かうことにした。千葉駅まではさほど長くはない。時間的にも、距離的にも。蘇我駅で113系に乗り、2駅で目的地の千葉駅へと着き、降りることにした。Walkmanを取り出し、「♪T-SQUARE TRUTH」を聴き始めた。



□千葉駅と言えば…

まず頭の中で浮かんだのは、湘南色*となった113系、そごうの中にあるLoftくらいしか思い浮かばなかった。湘南色の113系の運用は探すのは容易ではあったが、待つのは面倒。と思い、Loftを散策することに。散策していると、特設ブースがあった。そこには千葉県をモチーフにしたキャラクター「チーバくん」のグッズが置いてあった。どこことなく千葉県の形をしているのはわかるのだが、かわいらしさは彦根市のアイドルにはかなわない？思っている。前に親から携帯クリーナーのチーバくんをもらったので、今回、購入は控えた。一通り散策は終えて、買ったのは210円のシャープペンシル1本のみ。Loftに来たのにこれだけか！と自分にツッコミたくなった。

□再び千葉駅へ。

時刻は、17:40。時刻表を見ると「17:53 発 誉田行き」と掲載されていた。行ったことのない成東方面に行くか、誉田で201系の分割を見るか？と頭の中で2つに分けられてしまった。簡単に計算したところ、成東に行くと往復3時間くらい？だったら誉田だろ…と、誉田に行くことにした。6番線に向かい、止まっていた113系に乗り込んだ。誉田行きだったためか、車内はガラガラであった。窓側を選び、窓を上を開けることに。発車時刻になり、ドアが閉まりゆったりと動き始めた。私はそこで再びWalkmanを取り出し、曲を聴くことに。「♪ 彩音 Endless Tears…」最近ハマっている歌手の一人で、個人的には気に入っている曲のひとつである。その曲を始めいろいろと流れているうちに、風景は緑が濃くなっており都心部から少し遠ざかったのがわかった。

□誉田駅到着。



ホームに降り立つと、夕焼けが始まっていた。とりあえず、駅舎に上ってみることに。駅舎は仙石線の小鶴新田駅と似ている、近代的な半ドーム状の広い感じの作りとなっていた。デザインに凝っているような雰囲気がある駅は私的には結構好きである。改札口を出ると目の前には一面ガラス張りの窓が広がっている。一見、絵画の額縁のようにも見える。正直言うと、一眼レフを持ってこなかったことを惜しむくらいきれいであった。このようなきれいに感じる風景の駅は初めて見つけた。しかも、自宅近くでだ。この日、「再び訪れてみたい」と実感した日である。

□201系が来ない、いや、待てば来る。

結果的に言うと、早く着きすぎたのである。しかしながら、待ち時間は退屈ではなかった。夕焼けが暗闇に変わるのをじっくり観察できたからだ。自宅は目の前にマンションが建っているため

見えただけではなく、日頃じっくりと観察している時間なんてない、もしくは気にしていないからだ。正直、なんで簡単なことを日頃から気にしていないのだろうか？と思ったのだった。観察をしているうちに、201系の入線時間となった。その前に、なぜこの駅で201系を待っていたかという、1日1回の成東・勝浦行き列車の分割作業があるためである。残りの寿命が短いと言われている201系なので、この機会



に見ようと思ったからだ。19:00。201系が入線してきた。ブレーキ緩解音が鳴り、定位置に止まった。ブレーキの音と共に、カチャリと金属が外れる音がした。これで解結作業が終了した。意外と単純なものであった。自動化されていない113系とかであると、また少し違うものだったのであろう。19:04。成東行き発車。4両と軽快になった編成は、ジェット音を奏でながら成東の地へと旅立った。残るは、後ろ6両の勝浦行き。写真は後日撮影したものである

が、京葉線内では見られないものが目の前にいて、衝動的に撮ってしまった。実物を見て思ったが正直、何か物足りなさを感じた。19:08。勝浦行きが発車した。(その時、蘇我方面のホームには千葉行きの電車が来ていた。)最後が惜しい感じで終わったのが残念であったが、見られただけ良かったと思っている。この写真について余談をすると、当時空は紫のような色は出ていなかった。フィルムカメラ独特の癖が出たか、もしくは、カメラ自体の癖が出たのかもしれない。写真という世界は実に深い。

*湘南色—東海道線のラインカラーの名称。

■終わりに

今回、停車場に掲載する話はこれだけです。今後、鉄研のBlogの方で広げていきたいと思います。今後の活動を見守りください。